

ちょっと  
千ワってするよ

## ワクチンで予防しましょう

ワクチンは、病気にかからないため、かかっても軽い症状ですませるため、まわりの人に移さないために、接種します。



### @ワクチンは大きく分けて2種類

ワクチンの種類は沢山ありますが、大きく2種類に分かれます。

- ①**定期接種**：国や自治体が接種をすすめています。これらは、ほとんどが定められた期間内に接種すれば無償（公費負担）で受けることができます。（自治体によります）
- ②**任意接種**：①以外で日本で接種できるワクチンです。

### @ワクチンの副作用

副作用が怖くて子どもに接種させられない、という方もみえます。気持ちはわかります。本当なら副作用の全くないワクチンがあれば良いのですが、まだ、開発されていません。そんな時どう考えるのかですが、効果と副作用を天秤にかけます。例えば、現在任意接種になっている、おたふくかぜワクチンを例にとってみましょう。（接種可能な体調、状況であることが前提です。）

ワクチンを接種したときのおもな副作用のおよその割合は、耳下腺が腫れる 3%、0.1% 未満で、ショック、過敏症、無菌性髄膜炎。難聴、精巣炎は大変まれですが起こる可能性があります。

一方、ワクチンを接種しないときは、感染したら対処療法しかありません。多くの場合は軽症で、合併症がでなければその後は良好です。ただ、感染した年齢が上がるにつれて合併症が多くなります。感染した場合の主な合併症のおよその割合は、無菌性髄膜炎

1～10%、思春期以降では、男性で20～30%に精巣炎（激しい痛みで入院治療する場合も有り）、女性は5%に卵巣炎。難聴（治癒しない）については、20,000例に1例程度というデータもありますが、感染してから1ヶ月以内に発症し、多くは片耳だけなため気づかず、実は1,000人に1人と高頻度で、年間に500～2,000人の方が発症していると推測されています。

おたふくかぜワクチンの有効性は90%前後とされ、自然感染の合併症とワクチン接種後の副作用を比較すると、無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎、卵巣炎のいずれもワクチン接種後のほうが発症率は低いです。

薬の副作用は怖いかも知れませんが、薬による恩恵も多くあります。

ワクチン打ってって  
よかったね～